

第二十七課

父よ。お願いします

大祭司キリスト

「父よ。お願いします。あなたがわたしに下さったものをわたしのいる所にわたしといつしよにおらせてください。」

(ヨハネ一七・二四)

イエスは、告別のことばの中で、弟子たちに、神の国が力を持って来る時に、新しいいのちがどのようなものになるかを完全に啓示なさいました。弟子たちは、聖霊の内住と、天のぶどうの木につらなることと、キリストのために行ってあかしをし苦しむことのうちに、自分たちの使命と祝福を見出すはずでありました。主は、未来の新しいいのちを設定するにあたって、弟子たちの祈りが持つ力に対する無限の約束を繰り返し与えておいでになりました。そして今、終りにあたって御自身で祈られたのです。大祭司としての天におけるとりなしの祈りがどんなものであるかを知る喜びを弟子たちに与えるために、イエスは、御父に対する祈りという貴重な財産を残されたのです。主がこのようにされたもう一つの理由は、弟子たちが、祭司として主のとり

なしのわざにあずかり、この聖なるみわざをどのように実行するかを知るためです。最後の晩の主の教えの中で、私たちは次のことを学びました。すなわち、これらの驚くべき祈りの約束は、私たち自身のためではなく、主とその御国のために与えられたものであること、そして主御自身からのみ、御名による祈りが何を意味し、何を得心することができるかを学ぶことができるということです。また御名によって祈ることは、主御自身との完全な結びつきにおいて祈ることであることも学んだのです。この大祭司としての祈りは、イエスの御名による祈りが求め期待できるものを私たちに教えてくれます。

この祈りは、普通三つに分けられます。主は、まず御自身のために祈られました（一七・一―五）。次に弟子たちのために祈られました（六一―九節）。最後に、あらゆる時代の信じる者たちのために祈られました（二〇―二六節）。とりなしの祈りに献身し、御名によって自分の群のため祝福を願う求めてやまない者は、祈りの学校の最も重要な学課の一つとして、御霊の導きのものと謙遜をもって学びたいものです。

まず第一に、イエスは御自身のために、御自身が栄光をお受けになることを求めて祈られました。それは、御自身が御父に栄光を帰すためです。「父よ。子の栄光を現わしてください。今は、父よ、……わたしを栄光で輝かせてください。」イエスは、このように、祈る根拠を持ち出されています。天において、御父と御子との間に聖なる契約が結ばれ、御父は、御子のみわざの報い

として、すべての肉なる者を支配する力をお与えになりました。御子は、みわざを成し遂げて、御父の栄光を現されました。今ここでの御子のもう一つの目的は、御子が栄光を受けることでした。御子は、大胆に、御父が栄光を与えてくださるようお願いになりました。それは、御自身がお民のためになさったみわざにふさわしい方となり、それを行うためでした。

イエスの弟子たちよ。ここに、あなたが、大祭司の模範にならって学ぶべき、祭司としてのとりなしの祈りの学課があります。御名による祈りは、キリストに結びつき、キリストと一つになる祈りです。御子は、祈りの初めに、御父と御自身との関係を明らかにし、御自身のみわざと従順と、御父に栄光が帰せられることを願われました。私たちもこのようにしなければなりません。キリストにあつて神の御前に近づき、進み出なさい。あなたが主のみわざと一体となり、それに信頼し、それによって生きていることを申し上げなさい。御父があなたになさせようとして与えられたみわざを成し遂げるために、また、神の栄光のためにのみ生きるために自分自身をささげていることを申し上げなさい。そして、御子があなたのうちに栄光を現してくださることを安心して求めなさい。これこそ、御名による祈り、みことばそのものによる祈り、イエスの御霊による祈り、イエス御自身と一体になった祈りです。このような祈りには力があります。あなたが、イエスとともに御父の栄光を現すなら、御父は、あなたが御名によって求めるものに答えてくださることで、イエスの栄光を現してくださいます。もしこの点において、あなたと神との関

係がキリストのように明白であるなら、あなたが神の栄光を現し、ひたすら神の栄光を求める時には、キリストのように、周囲の人のためにとりなしの祈りをささげる力が与えられるのです。

次に主は、弟子たちのために祈られました。イエスは、弟子たちのことを、御父がイエスにお与えになった者としてお語りになりました。弟子であることのおもなしるしは、キリストのみことばを受け入れることです。イエスは、御父がイエス御自身をお遣わしになったように、弟子たちをイエスの代りに遣わすと言われました。イエスは弟子たちのために二つのことをお求めになりました。御父が彼らを悪い者から守ってくださることと、イエスも弟子たちのために御自分を聖別されたので御父がみことばによって彼らを聖別してくださることです。

主と同じように、信仰のあるとりなし手には、まず祈るべき身近な群があります。親には子供があり、教師には生徒があり、牧師には信徒があり、働き人には託された人々があり、信徒には心の重荷となっている人々があります。とりなしの祈りは、個人的で、確実で、明白であることが重要です。そして、私たちの最初の祈りは、必ずその人たちがみことばを受け入れるようにという祈りでなければなりません。しかし、この祈りは、私たちが主とともに、「わたしは彼らにみことばを与えました」と言うまでは、効果がありません。たましいのためのとりなしの祈りに自由と力を与えるのはこれです。彼らのために祈るだけでなく語らなければなりません。彼らがみことばを受け入れたなら、彼らが悪い者から救い出され、みことばによって聖別されるように祈

りましょう。信仰から落ちて行く者たちのために望みを失ったり、彼らを批判したり、あきらめたりする代りに、祈りましょう。「父よ。御名の中に、彼らを保ってください。」「真理によって彼らを聖め別ってください。」イエスの御名による祈りは大きな効果があります。「何でもあなたがたのほしいものは、あなたがたのためにかなえられます。」

続いて主の祈りは、更に大きな輪へと広がります。「わたしは、ただこの人々のためだけでなく、彼らのことばによってわたしを信じる人々のためにもお願いします。」祭司としてのイエスの心は広がり、あらゆる場所、あらゆる時を包み込んでしまいます。イエスは、イエスに属する者がどこにいても一つになることを祈られました。それは、イエスの使命が神からのものであることの証明であります。そしてイエスは、彼らも、永遠に、栄光のうちにイエスとともにいるように祈られました。「それは、あなたがわたしを愛してくださいとされたその愛が彼らの中にあり、またわたしも彼らの中にいるためです。」

イエスの弟子たちは、まず自分自身の群の中で祈りの力を証明しますが、そこにとどまっていることはできません。イエスの弟子は、世界の教会と、それぞれの枝のために祈ります。特に御霊と愛の一致について祈ります。彼らがキリストにあって一つとなるように祈ります。それは、愛によって、自己中心と分裂に勝たせるという奇蹟をなさったキリストこそ、真に天からおいでになった神の御子であることを世にあかしするためです。すべての信徒は、教会の一致が、外の

組織においてではなく、霊と真において明らかに祈らなければなりません。

祈りの内容についてはこれくらいにして、次に祈りの方法に移りましょう。イエスは、「父よ。お願いします」と言われました。イエスの御子としての権利と、御父の約束と、成し遂げられたみわざとを考えるなら、当然のことです。御父は主に、「わたしに求めなさい。わたしはあなたに答える」と言われました。イエスは御父の約束に従っただけです。イエスは、私たちにも同じような約束を与えてくださいました。「何でもほしいものを求めなさい。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられます。」イエスは、私に、ほしいものを御名によって求めなさいと言われます。イエスにとどまり、イエスとの生きた結びつきにあずかり、自分ではなくキリストがすべてとなられる時、信徒は、自分の大祭司のみことを引用し、「何をしてほしいのか」との質問に答えて、「あなたが私に約束してくださいましたものを、お願いします」と言うのです。これこそ本当の信仰です。これこそ神をあがめることです。自分が求めるものは、実際に主に受け入れていただけると確信しなさい。最初私たちの心は、そのように言うのをちゅうちょします。そのように言う自由も力もないと感じてしまいます。しかし、それは自分の意志を全く放棄した時のことばであり、そこから恵みが与えられます。自分の意志を捨てて、主のみこころを求める者に、恵みは最も確実に与えられます。自分の意志を捨てる者は見出します。自分の意志を全く放棄する者は、神の力によってそれが新たにされ、力づけられることを知るでしょう。「父よ。

お願いします。」これこそ、天における主の、永遠の、常にささげられている勝利あるとりなしの祈りの基調であります。主との結びつきがあつて初めて、祈りは効果をもたらします。主と結びつくことによつて、祈りは大きな効果をもたらすのです。主にとどまり、御名によつて生き、歩み、すべてのことを行い、すべての願いごとをみことばと御霊によつて試し、その願いごとを主から出る力強いとりなしの祈りの流れに投げ込み、それが御父の御前に運ばれることを期待するなら、私たちは、自分の求めたものは与えられると確信することができます。「父よ。お願いします」が、御霊御自身によつて、私たちのうちに吹き込まれます。私たちは、自分を主にささげてむなしくなりますが、その無力さの中に力を見出し、勝利ある祈りをささげるようになります。

主と同じように、祭司としてのとりなしをささげる召命を受けたイエスの弟子たちよ。滅び行く人々のために神に願い、勝利をわがものとするまで祈る私たちの栄光の使命に、いったいいつになったら目覚めるのですか。謙遜という隠れみのを着た怠慢をかなぐり捨てて、神の御霊に自分自身を全くささげ、御霊が光と力によつて私たちの意志を満たし、主をしつかりつかんだ私たちの意志によつて、神が与えようとしておられるすべてのものを知り、取り、自分のものとするのはいつのことなのでしょう。

恵み深い私たちの大祭司よ。私は何者なので、私を招き、勝利あるとりなしの祈りの力にあずからせようとなさるのでしょうか。主よ。あなたが御民を贖って、あずからせてくださったこのすばらしい特権を理解し、信じ、実行するのに、私の心はなんと鈍いのでしょうか。主よ。私の周囲の人々のために天からの祝福を絶えず祈り求めることが、私の絶えることのないライフワークとなりますように。

恵み深い主よ。私は、この自分の使命を受け入れるようになりました。このために、私はすべてを捨ててあなたに従います。信仰をもって、私のすべてを御手にささげます。目を覚まして、祈りにおいて戦うあなたの祈りの戦士として、また力をもって勝利を得たイスラエルとして、また神の子として私を整え、訓練し、奮い立たせてください。私の心を取りこにし、神が与えてくださった者たちが集められ、きよめられ、また一つにされることによって、主の栄光の現れることを願う者として、心を満たしてください。これを学び、自分の知恵とすることによって、どのような時に祈りが祝福をもたらすかを知ることができますように。私を完全にあなたのものとし、いつも神の御前に立ち、御名によって祝福を祈る祭司にふさわしい者とさせてください。

恵み深い主よ。私の霊的生活を通じてあなたがすべてであり、私が無となることを教えてください。

さい。自分のものを持たず、自分のために求めない者こそ、すべてのものを与えられ、あなたの永遠のとりなしのみわざにもあずかる恵みが与えられることを、今ここで経験させてください。
アーメン。